

- 問1 聖徳太子の死後、中国では隋に代わって唐が統一王朝を築きました。唐が朝鮮半島北部の高句麗を攻撃するなど東アジアの緊張が高まるなか、日本でもその影響を受けて、天皇を中心とする国づくりを目指す政治改革が始まりました。この改革の名称として正しいものを答えなさい。
(2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 大化の改新 2. 明治維新 3. 寛政の改革 4. 建武の新政
- 問2 飛鳥時代から現代までの日本の歴史を時系列で並べた際、聖徳太子が「十七条の憲法」を制定した時期よりも「後」の出来事であり、かつ奈良時代に行われた事柄として正しいものはどれですか。
(2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 日本で最初の女性天皇として、推古天皇が即位し政治の基盤を整えたこと 2. 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」の施行 3. バブル経済が崩壊し、長期にわたる景気の後退が始まったこと 4. 安土桃山時代を象徴する、豪華な装飾が施された城郭が各地に築かれたこと
- 問3 飛鳥時代、中国や朝鮮半島から大陸の文化や制度が伝えられる中で導入された「冠位十二階」について、その目的を説明したものとして最も適切なものはどれか。
(2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 家柄にとらわれず、有能な人材を役人として採用するため 2. 特定の有力な豪族だけに、代々高い位を保証するため 3. 地方の土地や人民を、すべて天皇が直接支配するため 4. 仏教の教えを広めることで、国を平和に導くため
- 問4 663年の白村江の戦いにおいて、倭（日本）は百済の復興を支援しましたが、唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北を受け、大宰府周辺の守りを固めるために佐賀県に築かれた「基肄城（きいじょう）」などの山城には、どのような背景や目的がありましたか。
(2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。 2. 朝鮮半島への再出兵を計画するための軍事訓練施設として、大陸に近い九州北部の山岳地帯に兵力を集結させる目的。 3. 仏教による国家の鎮護を目的として、大宰府を望む山の上に広大な寺院や仏塔を建設し、外敵を退散させる祈祷を行う目的。 4. 租・庸・調などの重い税負担に苦しんだ農民たちの反乱を鎮圧し、大宰府の役人が地方を監視する拠点とする目的。
- 問5 飛鳥時代の文化の特徴を記した資料において、その特色は「国際色豊かである」と説明されます。このように評される理由として、当時の寺院建築や仏像に見られる具体的な特徴を述べたものとして正しいものはどれですか。
(2024年 和歌山県公立入試 類似)
1. 遣唐使が廃止されたことで、それまで伝わっていた大陸の文化が日本の風土に合わせて消化され、独自の「かな文字」などが生まれたため。 2. 禅宗の影響を受けた武士たちが、中国の宋や元の文化を取り入れ、水墨画や茶の湯などの簡素な美意識を確立したため。 3. 遣唐使によって唐の最新の文化が都である平城京に直接もたらされ、国際的な正倉院宝物などが数多く作られたため。 4. 中国の南北朝時代の様式だけでなく、インドや西アジア、さらには古代ギリシャに起源を持つ建築様式の影響が、寺院の柱などに見られるため。
- 問6 飛鳥時代、大宝律令の制定によって確立された土地制度において、6歳以上の男女に与えられた土地の名称と、その土地の取り扱いについて述べた文として正しいものはどれか。
(2020年 広島県公立入試 類似)
1. 口分田と呼ばれ、子孫へ代々受け継ぎ、売買することも認められていた。 2. 地券が発行された土地であり、所有者が地価に応じた税を納めることとされていた。 3. 名田と呼ばれ、収穫の一部を地主に納めることで耕作が認められていた。 4. 口分田と呼ばれ、与えられた者が亡くなった後は国に返還することとされていた。
- 問7 4世紀から7世紀にかけての朝鮮半島において、北部の高句麗や南東部の新羅と対抗しながら、大和政権と緊密な関係を築いた南西部の国はどこですか。
(2018年 岐阜県公立入試 類似)
1. 高句麗 2. 百済 3. 唐 4. 新羅
- 問8 飛鳥時代から奈良時代にかけての歴史的な出来事をまとめた記録において、日本は遣唐使や遣唐使といった使節を繰り返し中国へ派遣していました。このような使節が派遣された主な目的として最も適切な説明はどれですか。
(2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 中国の軍事的な援助を受けて、朝鮮半島の諸国を武力で制圧するため 2. 中国の皇帝から日本の王としての地位を認めてもらい、朝貢貿易を独占するため 3. 中国の優れた統治システムや文化を学び、日本国内の政治体制を整えるため 4. キリスト教や鉄砲といったヨーロッパの新しい技術を中国経由で導入するため
- 問9 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は中国の進んだ制度や文化を学ぶため、小野妹子らを中国へ派遣しました。当時、約300年ぶりに中国全土を統一していたこの王朝の名称として正しいものを選びなさい。
(2023年 静岡県公立入試 類似)
1. 宋 2. 唐 3. 明 4. 隋
- 問10 7世紀後半から8世紀にかけて、日本が中国の隋や唐の国家体制を手本として編纂し、それに基づいて政治を行った基本的な法典の総称は何ですか。
(2023年 京都府公立入試 類似)
1. 分国法 2. 御成敗式目 3. 律令 4. 公事
- 問11 大化の改新から平安京遷都までの約150年間における社会の動きについて述べた文として、正しいものはどれか。
(2019年 香川県公立入試 類似)
1. 蘇我氏が大きな権力を持ち、政治の主導権を握り続けた。 2. 小野妹子が遣唐使として中国に渡り、大陸の進んだ制度を積極的に取り入れた。 3. 聖徳太子が摂政となり、十七条の憲法を定めて役人の心得を示した。 4. 律令の制定や東大寺の大仏建立など、天皇を中心とした国づくりが進められた。
- 問12 7世紀初めに聖徳太子（厩戸皇子）によって現在の奈良県に建立された、世界最古の木造建築物として知られる寺院を次の中から選びなさい。
(2024年 三重県公立入試 類似)
1. 法隆寺 2. 中尊寺 3. 東大寺 4. 延暦寺
- 問13 645年、中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏をたおしたことをきっかけに始まった政治改革では、どのような国家体制を目指したか。最も適切なものを選びなさい。
(2019年 香川県公立入試 類似)
1. 有力な豪族による合議制に基づいた政治 2. 天皇を中心とした中央集権的な国づくり 3. 外国の王をトップに据えた国際的な統治 4. 武士が政治の実権を握る封建的な仕組み

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大化の改新	中国で唐が成立し、朝鮮半島の高句麗を攻撃したことで、東アジア全体の国際情勢は非常に不安定になりました。日本はこの危機を乗り越えるため、豪族が権力を握る古い政治体制を改め、土地と人民を国家のものとする公地公民や、天皇を中心とした中央集権的な仕組みを作ることを決断しました。これが645年から始まる大化の改新であり、唐などの対外勢力に対抗するための国家改革という側面を持っていました。
問2	答え 2 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」の施行	十七条の憲法は7世紀初頭の飛鳥時代に制定されました。これに対し、墾田永年私財法は8世紀（743年）の奈良時代に制定された法令であり、時代順として後に位置します。推古天皇の即位は憲法制定の前提となる出来事であり、城郭の建築やバブル崩壊はそれよりもさらに数百年から千年以上後の出来事です。当時の社会状況の変化を時代区分ごとに理解することが重要です。
問3	答え 1 家柄にとらわれず、有能な人材を役人として採用するため	当時の日本は、大陸の進んだ文化を取り入れながら、天皇を中心とする国づくりを急いでいました。そのためには、世襲によって地位が決まる古い氏姓制度から脱却し、能力のある人物を政治の担い手として確保する必要があります。この制度の背景には、同時期の食文化と同様に、大陸との活発な交流が影響しています。
問4	答え 1 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。	白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れた倭（日本）は、強大な勢力が海を越えて攻めてくることを非常に恐れました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の防衛を急ぎ、大宰府の北側に水城（みずき）という堤防を築き、周辺の山々には大野城や基肄城（きいじょう）といった朝鮮式山城を築かせました。これは、対外的な緊張感が高まったことで、国内の政治体制をより一層中央集権化（律令国家への移行）させる大きな動機の一つとなりました。
問5	答え 4 中国の南北朝時代の様式だけでなく、インドや西アジア、さらには古代ギリシャに起源を持つ建築様式の影響が、寺院の柱などに見られるため。	飛鳥文化は、朝鮮半島や中国の南北朝時代の文化を直接の源流としていますが、その背景にはシルクロードを通じた東西交流があります。例えば法隆寺金堂の柱に見られる中央が膨らんだ「エンタシス」という技法は、古代ギリシャのパルテノン神殿などにも見られるものであり、当時の日本が遠く西方の文化圏とも間接的に繋がっていたことを示しています。
問6	答え 4 口分田と呼ばれ、与えられた者が亡くなった後は国に返還することとされていた。	大宝律令に基づく班田収授法では、戸籍に基づいて6歳以上の男女に「口分田」が与えられました。この土地は売買が禁止されており、本人が死亡した際には国に返還する決まりとなっていました。これによって国家が土地と人民を直接支配する「公地公民」の仕組みが維持されました。
問7	答え 2 百濟	朝鮮半島の南西部に位置した百済は、北から圧力を強める高句麗や、隣接する新羅との勢力争いの中で、日本の大和政権と結びつきました。この交流を通じて、日本へ仏教や儒教といった当時の先進的な大陸文化が伝わりました。
問8	答え 3 中国の優れた統治システムや文化を学び、日本国内の政治体制を整えるため	当時の日本は、大陸の先進的な文明を取り入れることで中央集権国家を確立しようとしていました。小野妹子などの使節とともに多くの留学生や学問僧が中国へ渡り、律令制度や仏教、芸術などを学ぶことで、大化の改新や平城京の建設といった国づくりに大きく貢献しました。
問9	答え 4 隋	6世紀末に中国を再統一した隋に対し、日本は「遣隋使」を派遣しました。小野妹子は607年に派遣された代表的な人物です。この時期の日本は、推古天皇の摂政であった聖徳太子らを中心に、大陸の優れた政治制度や仏教文化を取り入れることで、天皇中心の国づくりを進めようとしていました。
問10	答え 3 律令	刑罰を定めた「律」と、政治の仕組みや行政上の規定を定めた「令」からなる法体系です。中国の高度な統治システムを導入することで、天皇を中心とした組織的な国家運営（律令国家）を目指しました。中世に定められた「分国法」や江戸時代の「公事方御定書」などとは、成立時期や性格が異なります。
問11	答え 4 律令の制定や東大寺の大仏建立など、天皇を中心とした国づくりが進められた。	大化の改新で蘇我氏が倒された後、日本は本格的な法治国家を目指して701年に大宝律令を制定しました。また、752年には聖武天皇の発願により東大寺の大仏が完成するなど、仏教の力を借りて国を安定させようとする天皇中心の政治が展開されました。聖徳太子の活動や遣隋使、蘇我氏の全盛期はいずれも大化の改新以前のことです。
問12	答え 1 法隆寺	聖徳太子が建立したこの寺院は、現存する世界最古の木造建築群であり、当時の仏教文化の高さを示しています。これに対し、東大寺は8世紀に聖武天皇が、中尊寺は12世紀に藤原清衡が、延暦寺は9世紀初めに最澄がそれぞれ建立したものです。
問13	答え 2 天皇を中心とした中央集権的な国づくり	蘇我氏を打倒した後に始まった大化の改新は、それまで有力豪族が持っていた権力を集約し、天皇を中心とした新しい国づくりを目指すものでした。この改革により、土地や人民を国家が直接支配する「公地公民」などの制度が整えられていきました。